

# ボランティアの推進を語り合おう

## 第34回ボランティア推進団体会議 in 茨城 **参加者募集中**

「ボランティア推進団体会議」（通称：民ボラ）は、ボランティアに市民活動を進めようとする団体・人々が集い、相互研鑽を進める場です。「ボランティア」、「市民参加」、「共感力の向上」をキーワードに、ボランティアや市民活動推進に関わる団体関係者が全国から集い、1983年以降、毎年全国大会を開催してきました。

2016年度は8年ぶりに茨城で開催します。今回は特に市民運動の担い手としての若者に大きくフォーカスして議論します。社会の課題に対し、「放っておけない」という想いや願い、夢を実現しようとする志のもとに結集するボランティアをどのように推進するか、主体的な市民参加を一緒に考えましょう。



日時

2016年 **6月18日** (土) 13:00~ **19日** (日) 12:30

※ 部分参加可能！

会場

トモスミとビル 3階  
(茨城県水戸市大工町 1-2-3)  
※ 詳細は参加申込書参照

### スケジュール

日付	時間帯	時間	内容	
2016年6月18日(土)	12:40~13:00	20分	受付	
	13:00~13:30	30分	開催の挨拶	
	13:30~15:20	110分	基調鼎談：「現在の若者による世論形成と、かつての市民運動をつなぐ」	
	15:20~15:30	10分	休憩	
	15:30~17:00	90分	分科会①：「市民主導のまちづくり拠点」	分科会②：「『ケアする人のケア』を考える」
	17:15~	?!分	交流会	
2016年6月19日(日)	9:00~10:30	90分	分科会③：「政治と市民活動の距離感をはかる」	分科会④：「市民活動支援組織だからこそできる災害復興支援のあり方」
	10:30~10:40	10分	休憩	
	10:40~12:00	80分	クロージング・ディスカッション：「若者の社会参画の環境づくりを考える」	
	12:00~12:30	30分	分科会報告及び閉会の挨拶	

対象

- ボランティアや市民活動の推進に関心のある方、実際に活動をされている方
- ボランティア・市民活動センター、NPO 支援センター、社会福祉協議会の役職員、協働や市民活動支援、生涯学習担当の自治体職員など、ご関心のある方はどなたでも
- 基調鼎談のテーマに関心のある方

参加費

1日のみ：2,000円(税込)  
両日参加：4,000円(税込)  
交流会費：2,000円(税込)

主催

ボランティア推進団体会議（世話団体：一般財団法人 富士福祉事業団、社会福祉法人 大阪ボランティア協会、NPO 法人 静岡県ボランティア協会、山梨県ボランティア・NPO センター、東京ボランティア・市民活動センター、認定 NPO 法人 とちぎボランティアネットワーク、いたばし総合ボランティアセンター、認定 NPO 法人 JUON(樹恩) NETWORK、NPO 法人 ちば市民活動・市民事業サポートクラブ、認定 NPO 法人 茨城 NPO センター・コモンズ)

※ 順不同

詳細はこちらから

## 基調鼎談：「現在の若者による世論形成と、かつての市民運動をつなぐ」

～若者による運動をいかに支えるか～

公開企画

新たな安全保障関連法制に反対の声を上げた若者による市民運動が大きな脚光を浴びました。また、18歳からの選挙権も始まります。一方、ブラック企業、ブラック・バイト、非正規雇用、学生ローン返済、ひきこもりなど、若者を取り巻く社会課題もさらに顕在化してきています。

政治や市民運動、社会変革、連帯に関心を持ち、声を上げる若者の想いや考えを聞きながら、かつて学生運動などに関わった世代と比較、交流して議論を重ね、お互いの共通点と違い、お互いに学ぶべきことなどを明らかにします。

また、現在市民運動に取り組んでいる若者から NPO がどのように見えているのかを明らかにし、両者をつなげるきっかけとします。



役割	団体名	役職名	氏名
協議者	NPO 法人 POSSE	代表理事	今野 晴貴 氏
	NPO 法人 自殺対策支援センター ライフリンク	代表	清水 康之 氏
	認定 NPO 法人 日本 NPO センター	代表理事	早瀬 昇 氏
	社会福祉法人 大阪ボランティア協会	常務理事	
コーディネーター	認定 NPO 法人 茨城 NPO センター・コモンズ	代表理事	横田 能洋 氏

### 今野 晴貴 氏

1983年、宮城県生まれ。NPO 法人 POSSE 代表。ブラック企業対策プロジェクト共同代表。年間 2,000 件の若者からの労働相談に関わっている。

著書に『ブラック企業 日本を食いつぶす妖怪』（文春新書）、『生活保護 知られざる恐怖の現場』（ちくま新書）、『求人詐欺』（幻冬舎）、『ブラックバイト』（岩波新書）など。

2013年に「ブラック企業」で流行語大賞トップ 10 を受賞。著書『ブラック企業』は大佛次郎論壇賞を受賞した。一橋大学大学院博士課程在籍。専門は労働社会学、社会政策学。

### 清水 康之 氏

元 NHK 報道番組ディレクター。2001年、自死遺児たちを一年がかりで取材し放送、大きな反響を呼ぶ。2004年に NHK を退職し、同年 NPO 法人 ライフリンク を設立、代表就。2006年、「自殺対策の法制化を求める 3 万人署名（結果 10 万人分集まる）」を企画・展開して、『自殺対策基本法』の成立に貢献。また、基本法施行から 10 年目の今年、その大改正を実現。『改正自殺対策基本法』の成立を主導した。『自殺実態白書 2008』発行責任者。著書に『闇の中に光を見いだす ～貧困と自殺の現場から～』（岩波ブックレット）、『「自殺社会」から「生き心地の良い社会」へ』（講談社文庫）。

### 早瀬 昇 氏

1955年 1 月、大阪府生まれ。学生時代に交通遺児問題、地下鉄バリアフリー化問題などに関わる市民活動に参加。77 年 京都工芸繊維大学・工芸学部（電子工学科）卒業。フランス・ベルギーの福祉施設で研修後、78 年に社会福祉法人大阪ボランティア協会に就職。91 年 事務局長就任、現在、常務理事（07 年～）。96 年 認定特定非営利活動法人日本 NPO センター 常務理事就任、2012 年より代表理事。

【日 時】 2016 年 6 月 18 日（土）13:30～15:20

### 【こんな方にオススメ！】

- 自分たちが立ち上がらなければ世の中は変わらないと考える若者
- かつての学生運動などを行っていた世代
- 市民運動に関心のある中間支援組織の職員
- このテーマに関心のある方ならどなたでも

【定 員】 120 名

【企 画】 認定 NPO 法人 茨城 NPO センター・コモンズ

## 分科会①:「市民主導のまちづくり拠点」

～公立の施設運営に、市民がどのように関わるか考えよう～

茨城県小美玉市の「四季文化館みの～れ」は、計画段階から市民が関わり、市民が中心となった企画実行委員会での決定をもとに運営されています。公立の文化施設で、勤務しているのは行政職員ですが、館長は民間人で、多くの市民がボランティアで運営に関わっています。県内の様々な企業の会議を誘致し、稼働率が90%を超え、文化施設としては全国トップクラスとなっています。同市には「小美玉市まるごと文化ホール計画」

があり、市民が中心となって、市内至るところを文化ホールにしようと計画されています。また地方創生の一環として、同市では芸術家招聘や空き家活用も検討されています。このみの～れの取り組みは、2冊の書籍としてもまとまり、全国からも視察が少なくありません。

この分科会では、文化やまちづくりの拠点運営に市民がどのように関わるか、という切り口で市民の社会参画を考えます。

役割	団体名	役職名	氏名
話題提供者	茨城県小美玉市四季文化館みの～れ	館長	山口 茂徳 氏
		スタッフ	原田 啓司 氏
コーディネーター	一般財団法人 富士福祉事業団	理事長	枝見 太郎 氏

### 山口 茂徳 氏

茨城県小美玉市在住。合併前の旧美野里町「四季の里末来の夢創造委員会委員として四季文化館みの～れの構想づくりに関わる。2003年8月民間人としてみの～れ館長に就任。2008年4月からは小美玉市小川文化センター「アピオス」館長にも就任。

### 原田 啓司 氏

小美玉市職員（本年4月より子ども福祉課）本年3月まで小美玉市生活文化課へ所属し、四季文化館みの～れを8年間担当した。市役所職員であるかたわら茨城県青年の船の会元会長、茨城県青少年育成協会理事、地域の消防団やNPO法人玉里しみじみの村などに参加し、積極的に地域活動に取り組んでいる。

【日時】2016年6月18日（土）15:30～17:00

【こんな方にオススメ！】

- 生涯学習機関関係者や市民活動推進担当の自治体職員
- 市民協働や住民参画に関心のある人

【定員】40名

- このテーマに関心のある方ならどなたでも

【企画】一般財団法人 富士福祉事業団

## 分科会②:「『ケアする人のケア』を考える」

みんなが笑顔で暮らせる地域とは ～地域の支え合い・助け合いと「新しい総合事業」を考える

少子高齢化、介護者不足、新しい総合事業など、課題は山積みながらも、共生社会に向けて大きく舵が切れようとしている中、高齢者を支える人（ケアラー）を支える仕組みが必要です。すでに認知症の理解を広める試みや、子どもから高齢者

まで集まれる居場所作り、医療や介護の専門家と地域との連携などの実践が見られます。1人で悩まず、多様な主体が支え合える地域力の醸成のため、改めて中間支援組織の役割なども考えます。

役割	団体名	役職名	氏名
話題提供者	NPO法人 健やかネットワーク	理事	佐々木 令三 氏
	ケアラースカフェ&いきぬき処 みちくさ亭	代表	布川 佐登美 氏
コーディネーター	NPO法人 ちば市民活動・市民事業サポートクラブ	事務局長	鍋嶋 洋子 氏
進行	いたばし総合ボランティアセンター	副所長	神元 幸津江 氏

### 佐々木 令三 氏

地域でのたまり場、認知症カフェ、子ども食堂など小地域を意識した活動を行う。高齢者自身の社会参加、高齢者を支える家族や専門職がいかに「助けられ上手」になるかを講座などを通じて伝えている。平成28年度より、板橋区の新しい総合事業のモデル事業所となり、参加している「いたばしコミュニティスペース連絡会」でも、コミュニティスペースが「新しい総合事業」における第2層の協議体メンバーとして参加する意義を伝えている。

### 布川 佐登美 氏

ご自身の介護体験を基に、介護する人が孤立化しないための場所が必要と考え、自宅を改造し2013年10月にケアラースカフェをオープン。地域の人たち、介護者、認知症当事者が入り混じって、ゆったりと過ごすスペースとなっている。認知症は介護に関する連続講座を開催することで、社会の理解を広げ、新たなボランティアを獲得している。

【日時】2016年6月18日（土）15:30～17:00

【こんな方にオススメ！】

- 「新しい総合事業」に関心のある人
- ケアラースカフェ、認知症カフェなどコミュニティスペースに関心のある人

【企画】NPO法人 ちば市民活動・市民事業サポートクラブ、NPO法人 静岡県ボランティア協会、いたばし総合ボランティアセンター

【定員】40名

- 医療や介護などの専門職の人
- みんなと議論して明日につなげたい人

### 分科会③:「政治と市民活動の距離感をはかる」

#### ～山梨・さいたまの場合を考える～

ボランティア・市民活動を推進する中間支援機関は、政治との距離をどのようにとっているのでしょうか。政治家の言動に端を発し、県の施策が一変したり、条例が突如として作られたり、健全な市民活動が大きく左右される事例がおきています。新しい山梨県ボランティアセンターの運営体制やさいたま市市民

活動サポートセンターの現状について説明を受け、そこで何が起きたのか、自由な市民活動に制限が加えられているのではないか、そもそも、政治との向き合い方、距離はどう保つのかなど考えます。

役割	団体名	役職名	氏名
報告者	山梨県ボランティアセンター	職員	鈴木 知幸 氏
	認定 NPO 法人 さいたま NPO センター	専務理事	村田 恵子 氏
コメンテーター	社会福祉法人 大阪ボランティア協会	顧問	岡本 榮一 氏
進行・聞き手	NPO 法人 静岡県ボランティア協会	事務局長	鳥羽 茂 氏

【日 時】 2016年6月19日(日) 9:00~10:30

#### 【内 容】

1. 山梨・さいたまの報告
2. 市民活動を捻じ曲げた原因の謎解き
3. 政治との向き合い方
4. 山梨・さいたまの将来展望(グループワーク)
5. グループからの発表
6. コメンテーターからのお話
7. 報告者から一言

【こんな方にオススメ!】本テーマに関心のある方ならどなたでも **【定 員】** 40名

【企 画】 NPO 法人 静岡県ボランティア協会、NPO 法人 ちば市民活動・市民事業サポートクラブ

### 分科会④:「市民活動支援組織だからこそできる災害復興支援のあり方」

#### ～復興に向けた被災者の多様な生活支援を考えよう～

茨城県常総市では、昨年9月に数十年に1度の大水害が発生し、今も復興途上にあります。過去の災害の被災者支援活動をふりかえり、民間の市民活動支援組織だからこそできた支援活動、例えば、多様な被災者のニーズに寄りそった支援、

市民の声を復興計画に反映させたり、市民を復興の担い手に変えるまちづくり活動などに焦点を当て、今後の常総市での支援活動や、他の災害での復興期における支援活動のあり方を考えます。

役割	団体名	役職名	氏名
協議者	被災地 NGO 協働センター	代表	頼政 良太 氏
	認定 NPO 法人 レスキューストックヤード	常務理事	浦野 愛 氏
コーディネーター	認定 NPO 法人 茨城 NPO センター・commons	代表理事	横田 能洋 氏

#### 頼政 良太 氏

1988年広島市に生まれ。2007年、神戸大学入学と同時に中越・KOBÉ足湯隊(現:KOBÉ足湯隊/事務局:被災地NGO協働センター)として災害ボランティア活動を始める。同年7月より2009年3月まで中越・KOBÉ足湯隊代表を務める。

その後、中越沖地震、兵庫県佐用町水害、新燃岳噴火災害、東日本大震災など計15以上の国内の災害救援活動に従事。2011年4月より被災地NGO協働センタースタッフ。2011年4月~2013年5月まで日本財団ROADプロジェクト×震災がつかなく全国ネットワークの足湯ボランティア担当として東京に向向。2015年5月より代表。

#### 浦野 愛 氏

阪神・淡路大震災では、同朋大学の学生が設立した支援サークル「同朋大学ボランティアネットワーク」に所属し、被災者支援にあたった。卒業後、特別養護老人ホームデイサービスセンターで寮母として勤務したのち、レスキューストックヤードの設立と同時に事務局スタッフとなり、2004年度より事務局長、2009年度より常務理事を務める。災害時要援護者への支援事業を中心に、地域防災・災害ボランティア等、各種講演会・講座講師、支援プログラムの企画・運営を行っている。社会福祉士。

【日 時】 2016年6月19日(日) 9:00~10:30

【こんな方にオススメ!】本テーマに関心のある方ならどなたでも **【定 員】** 40名

【企 画】 認定 NPO 法人 茨城 NPO センター・commons、認定 NPO 法人 とちぎボランティアネットワーク

## クロージング・ディスカッション:「若者の社会参画の環境づくりを考える」

～社会と結びついた生き方を選ぶ若者を育てよう～

ボランティアや市民活動を通じて、人は生きる希望や困難を乗り越えていく力を身に付けることができます。NPO で働き、社会と結びついた生き方に関心を持つ若者が増えています。一方で、アルバイトやサークルなどで忙しい学生と NPO が

より接点を持つために、NPO や中間支援組織は何かできるのでしょうか。

若者に対し、NPO がどのように受け皿となりえるか、基調鼎談で出されたヒントを具体化するために議論します。

役割	団体名	役職名	氏名
協議者	NPO 法人 トチギ環境未来基地	理事長	塚本 竜也 氏
	一般社団法人 栃木県若年者支援機構	副代表	
	NPO 法人 とちぎユースサポーターズネットワーク	代表理事	岩井 俊宗 氏
コーディネーター	一般財団法人 富士福祉事業団	理事長	枝見 太朗 氏

### 塚本 竜也 氏

大学では森林資源を専攻、大学卒業後、米国若者たちのチームによる長期間の環境保全活動の Conservation Corps プログラムに参加。日本で同様の活動をつくることを目標に活動開始。現在は「若者」と「環境」を中心に、様々な活動を展開。震災以降、福島県いわき市で活動開始。栃木県若年者支援機構副理事長等兼務。公職は、栃木県社会貢献活動促進懇談会委員など。

### 岩井 俊宗 氏

1982 年生まれ。栃木県宇都宮市出身。2005 年宇都宮大学国際学部卒業後、ボランティアコーディネーターとして、宇都宮市民活動サポートセンター入職。NPO・ボランティア支援、個別 SOS に従事。2008 年より、若者の成長の機会創出と、持続的に取り組む人材を輩出し、若者による社会づくりの促進を目的に、とちぎユースサポーターズネットワークを設立。2010 年 NPO 法人化。代表理事を務める。NPO 法人宇都宮まちづくり市民工房理事、栃木県社会貢献活動推進懇談会委員、栃木県協働アドバイザー、一般社団法人とちぎニュービジネス協会理事等も務める。

【日 時】 2016 年 6 月 19 日 (日) 10:40~12:00

### 【こんな方にオススメ!】

若者ボランティアや若手 NPO 職員を育成したいと思っている中間支援組織、社会福祉協議会職員、生涯学習機関職員、青少年育成機関職員など

【定 員】 120 名

【企 画】 認定 NPO 法人 茨城 NPO センター・commons

## 民ボラの世話人会メンバーになりませんか？

「ボランティア推進団体会議」(通称:民ボラ)は、ボランティアに市民活動を進めようとする団体・人々が集い、相互研鑽を進める場です。

### 【特 徴】

- キーワードはボランティア、市民参加、共感力の向上
- 民主主義の根幹をなす「市民が主体的に社会参加すること」。その思いをつなぐ場
- 実践例、経営課題への工夫・努力、知恵を分かち合う

### 【運営スケジュール】

時 期	行 事	内 容
春～夏	民ボラ研修会議	
民ボラ研修会議当日の終了後	第 0 回実行委員会	振り返りを行い、次回開催日程や場所などを決定
秋頃	第 1 回実行委員会	次回研修会議の企画アイデア検討
冬頃	第 2 回実行委員会	次回研修会議の企画を深掘り
	第 3 回実行委員会	次回研修会議の構成を決定し、役割分担
冬～春	民ボラ研修会議の開催準備	募集要項の確定と広報など

### 【メリット】

- 実行委員会に集う各団体の(主に)CEO と交流し、NPO や市民活動の今を議論できる。
- 他の団体のノウハウを得られる。
- 実行委員会への参加費は無料!(ただし旅費は自己負担)

詳細は別紙「参加のご案内」をご確認の上、第 34 回ボランティア推進団体会議事務局(認定 NPO 法人 茨城 NPO センター・commons)にお問い合わせください。



**会場** トモスミビル 3階 (水戸市大工町 1-2-3)

- ※ 水戸駅北口バス乗り場④⑤⑥⑦番より、「大工町」下車。約 10 分。
- ※ 1 階に水戸信用金庫が入っている建物です。
- ※ 建物に無料駐車場はございません (水戸信用金庫の駐車場はご利用できません)。日中は安価な駐車場が付近に多くあります。

**お申し込みする際の諸注意**

- 宿泊は各自ご予約ください。
- 参加費は、当日に現金でお支払いください。領収書をお渡します。事前振込を希望される方は、ご連絡いただいた上、以下までお振込みください。  
中央労働金庫 水戸支店 普通 6776371  
茨城 NPO センター・commons 代表理事 横田 能洋  
イバラキエヌピーオーセンターcommons ダイヒョウリジ ヨコタ ヨシヒロ

**お申し込み・お問い合わせ** **第34回ボランティア推進団体会議事務局**  
(認定 NPO 法人 茨城 NPO センター・commons)  
担当：大野  
〒310-0022 茨城県水戸市梅香二丁目 1 番 39 号 茨城県労働福祉会館 2 階  
☎：029-300-4321 (当日の緊急連絡先にもなります)

**「第34回ボランティア推進団体会議 in 茨城」参加申込書** 締切：2016年6月16日(木)

FAX：029-300-4320 eメール：info@npocommons.org

フリガナ			団体名	
氏名			(もしあれば)	役職( )
連絡先住所	〒 (自宅・所属団体・勤務先)			
☎	FAX		eメール	
参加するセッション (☑してください)	<input type="checkbox"/> 基調鼎談：「現在の若者による世論形成と、かつての市民運動をつなぐ」			
	<input type="checkbox"/> 分科会①：「市民主導のまちづくり拠点」		<input type="checkbox"/> 分科会②：「『ケアする人のケア』を考える」	
	<input type="checkbox"/> 交流会		<input type="checkbox"/> 分科会④：「市民活動支援組織だからこそできる災害復興支援のあり方」	
	<input type="checkbox"/> 分科会③：「政治と市民活動の距離感をはか る」		<input type="checkbox"/> クローキング・ディスカッション：「若者の社会参画の環境づくりを考える」	

※ ご記入いただいた個人情報は、本行事の運営及び関連するご連絡のみに使用致します。  
※ 1 団体複数名までのご参加も歓迎です。コピーしてお書きください。